

神箸溪心
プロ
直伝!

Pool & Snooker Method

スヌーカー式 パーフェクトフォーム

国内スヌーカーでは敵なし、今年JPBA入りで即公式戦優勝を果たし、2つの種目でタイトルを持つ若手有望株の神箸溪心プロ。その神箸プロは、スヌーカーで培ったフォームをそのままポケットに応用し、キューをポケット用に替えただけで圧巻のパフォーマンスを見せている。つまりスヌーカースキルはポケットビリヤードに役立つ証でもある。では具体的にどのようなスキルを活用しているのか？ 全てのビリヤードプレイヤーに役立つスヌーカーメソッドを伝授してもらおう。

取材協力／Zeke (横浜市都筑区)

スヌーカーフォームの有効性

——スヌーカーフォームを駆使しながらポケットビリヤードの舞台で活躍続ける神箸プロですが、今回はそのスヌーカーフォームがいかにポケットに役立つかを探る企画となります。本日はよろしくお願いします。

神箸 漢心(以下、神) よろしくお願ひします。

——まずはスヌーカーとポケットの違いについて教えていただけますか？

神 シュートや手球のコントロールといった、ビリヤードに必要な技術の難易度が格段に違います。スヌーカーはテーブルが広い上に穴も小さく、角(ツノ)部分が丸い形状をしているので、簡単に弾かれてしまいます。

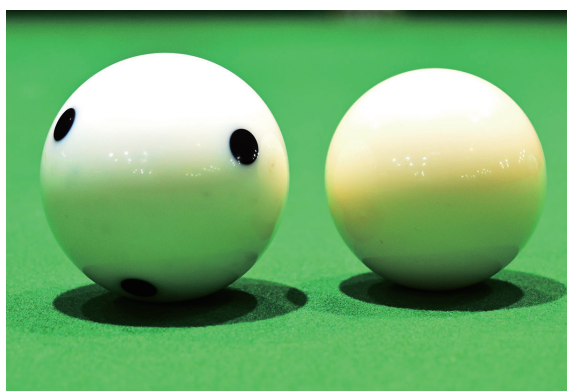
——道具の違いについてはどうですか？



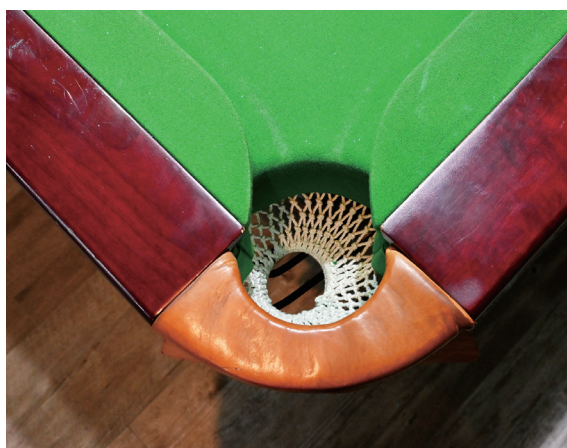
キュー全長はポケット58インチ(147cm)がノーマルサイズ、スヌーカーキューは55~58インチ(139~147cm)とやや短く、細い形状。



ポケットキューのタップ径：約13mm
スヌーカーキューのタップ径：約9.5mm



ポケットボール径：約57mm
スヌーカーボール径：約52.5mm



穴が狭いだけでなく、ポケットビリヤード台のように角張った角(ツノ)がない、丸みを帯びた形状のため、少しでもシュートが逸れてしまえば弾かれて外れてしまう。いわゆる「カタカタイン」という現象が起きにくい。

神 スヌーカーキューは細いのと、木材の違いですね。ポケットキューはメイプルが多いと思うんですが、スヌーカーはアッシュが多く、打感はメイプルの方が力強いように感じます。スヌーカーはボールが小さくて軽いので、インパクト時にボールが飛んでしまうようなショットは避けたいです。それで理に適ったキューになっているんだと思います。

——スヌーカーテーブルは高さが高いことも特徴ですね。

神 はい。ポケットは『ダイヤモンドテーブル』が比較的高い方ですけど、それでもスヌーカーテーブルに比べると低いです。

——これだけ違いがあるのに、スヌーカーからポケットに転向して違和感などは感じなかったんですか？

神 元々両方プレーしていたのもあって、

それはないですね。どちらか片方だけしかプレーしたことがない人には感じるかもしれないんですが……。あつても、先ほどのテーブルの高さで言うところ、実は体勢がキツかったりもします(笑)。

——なるほど(笑)。今伺った話をまとめると、スヌーカーにはより正確なシュート技術が必要とされ、ショット時に球が小さくジャンプするような飛びをなくするため、確立されたフォームが必要とされる。そして種目の違いでそれほど違和感もないので、ポケットでも有効だということですね。

神 その通りです。スヌーカー選手って、動画とかで見てもみんな同じフォームじゃないですか？ そのフォームで何年も選手として第一線で続けていられるということは、必ず合理性があるものだと思います。

プロ転向への決意

——ありがとうございます。フォームについては後ほど詳しく解説していただきますと思いますが、このインタビュの機会に改めて、神箸プロのことについて伺います。これまでスヌーカーの舞台で世界を目指して活動されていましたが、今年からポケットに転向し、J PBAプロ入りとなりました。この経緯について教えてくださいませんか？

神 スヌーカーを辞めるという決断をしたのが去年の11月、そして12月にプロテストを受けました。ホントに即決即断でした(笑)。当時はスヌーカーで活動していくことに限界を感じていて、国内のビリヤードだけで食べていくのも厳しい世界じゃないですか？ でもビリヤードはずっと続けたいと思っていました。そ

POCKET



SNOOKER



ポケット、スヌーカーをプレーしていたとき、同じアングルで撮ったもの。スヌーカーテーブルの方が高いが、基本姿勢はほぼ同じ。

のことを同い年(22歳)で先にプロに入った杉山功起プロに相談していて、杉山プロのスポンサーの『清水不動産』さんとも面識がありました。社長はビリヤードの選手としての活動にも理解がある方で、事務所にもテーブルがあります。僕の『仕事をしながらビリヤードを続けたい』というワガママなお願いを聞いて下さる形で入社することになり、プロ入り、引っ越し、仕事という流れでした。

—— 怒濤の日々ですね。

神 そうですね。でもこれまでは海外での1人暮らしとかも経験していたので、それに比べるとへっちゃらです(笑)。

—— では平日は普通に働きながら、なかなか練習できない中で試合ということ

か？

神 練習は仕事が終わった後にしています。大変と言えば大変かもしれませんが、今はとても充実していますよ。

プロ転向初年度に優勝

—— アマ時代にも公式戦優勝(2022西日本グランプリ第1戦)がありました。プロ入り初優勝は『全日本14-1』で羅立文プロに勝つての優勝でした。

神 最初は僕がラッキーもあって走れたんですけど、終盤に『優勝』のプレッシャーがかかって追い付かれたんですよ。優勝するのは大変なんだと身に染みみました。

—— 優勝の実感というのはいかがでした

か？

神 その瞬間はあまりなかったですね。とにかく3時間半苦しいだけだったので……(笑)。その後周りの方からお祝いしてもらって、ようやく実感が湧きました。

—— アマ時代の優勝とプロでの優勝。違いはありましたか？

神 プロとアマというより、自分が『この世界でやっていくんだ』と決意してから優勝でしたし、その間に支えて下さる方やいろんな人との交流が増えたので、そういった面での違いはありましたね。勝つということに関しては、立場に関わらず嬉しいですよ。

—— 覚悟の違いということなんですか。

神 今もそうですが、なかなか予選を突破できないことが多いので、その壁を越えてまず1勝できたことは良かったと思っています。

—— 去年のアマ時代には『ジャパンオープン』で特設の舞台も経験しました(取材はジャパンオープン前。今年は昨年の5位を越える3位入賞を果たした)。

神 去年はベスト8(飯間智也プロ戦)でゲームボールの入れスクラッチからの逆転という悔しい負け方をしてしまったので、今年は頑張りたいですね。

スヌーカーの経験をレッスンに

—— 多忙な日々を送られている神箸プロですが、レッスンも行っているんですね。

神 はい。今はポケットとスヌーカー、両方のレッスンをしています。技術的なことももちろんなんですが、僕はこれまでタイや中国、いろんな国を回ってビリヤードを学んできました。子供の頃からビリヤードでの海外留学を経験し、国内でプロとして活動しているのは僕だけだ

と思うので、この経験を日本の皆さんに伝えていきたいと思っています。

—— それは海外のビリヤードトークを聞くだけでも楽しそうですね。技術的なことではどんなアドバイスをされるんですか？

神 基本的にフォームやストロークを見て、直した方がよいと思う部分を伝えるような形式です。この後、僕のフォームについて解説させていただきますが、全てを採り入れるのはオススメしません。レッスンでは、「こうした方がよい」みたいな押し付けるものではなく、あくまで選択肢を伝える形式を採っています。

—— 良いと思った部分を採り入れて、ビリヤードを楽しんでいただければと思います。—— ありがとうございます。ではフォーム解説をお願いします。

神箸 溪心 Keishin Kamihashi

2022年まではスヌーカーを主戦場に海外遠征を行う傍ら、ポケットではアマチュアとして『2022西日本グランプリ第1戦』で優勝。その後ポケットに転向し、2023年からJPBA57期生としてプロ活動をスタート。同年『全日本14-1オープン選手権』でプロ初優勝を挙げ、9月に行われた『第36回ジャパンオープン』では3位タイと、デビュー年で既にトッププロの仲間入りを果たしている。

フォーム編

スヌーカーフォームと言えば、素人目でもわかるのが姿勢の低さ。しかしこれだけでなく、細かなチェックポイントがあり、それぞれにメリットがあるという。神箸プロには、そのポイントごとに解説いただいた。この中にフォーム改善のヒントがあれば、採用してみてもいいだろうか。



POINT 1 身体4箇所をキューに付ける

スヌーカーフォームの肝と言える部分だと思えますが、構えた時にグリップ、胸、アゴ、ブリッジの4点がキューに接触しています。ポケット選手は胸、アゴを付けない方が多いですが、スヌーカーでは基本として学ぶことです。すぐ感覚的な話になってしまうのですが、バスケットで言う「左手は添えるだけ」に近いと思います(笑)。理由としては、ストロークの際にキューが左右にブレないようにするためです。



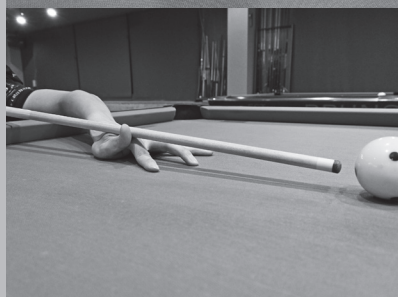
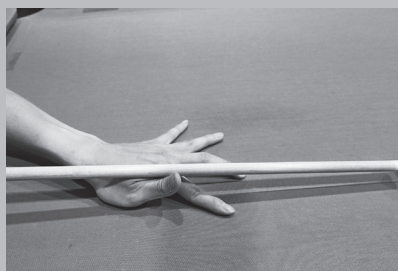
POINT 2 オープンスタンスで固定

ポケット選手はショットする方向に向かって縦(並行方向)に足を並べる「クローズスタンス」が多いですが、スヌーカー選手はショット方向から横(垂直方向)に足を並べる「オープンスタンス」が多いです。僕がオープンを使う理由は、安定感です。縦に足を並べると、横からの衝撃に弱く、簡単にグラグラしますよね? オープンを使えばブリッジと合わせて三脚のような役割になるので、安定感という意味ではこちらの方が利があります。



POINT 3 角度を付けないブリッジ

スヌーカーではオープンブリッジが基本で、特殊なショットを除いてスタンダードブリッジを使うことはありません。ブリッジを低くして、なるべくキューを水平にするのも特徴です。



POINT 4 背中を反る構え

背中を丸く、猫背のような構えをしている方がいますが、僕は背筋を伸ばすフォームを推奨しています。背筋を伸ばすと自然に肩が上がり、低く構えると懐が狭くなるというデメリットが解消されてキューを振りやすくなります。胸をキューに付けることを意識していれば、自然と姿勢も正されていくと思います。



POINT 5 肩の位置にも注意

低く構えようとすると、窮屈な体勢を紛らわすために肩を外側(写真では右方向)にズラしたりする方がいます。これがショットミスの原因になります。背中を反って肩の位置を真っ直ぐ高く構える。これをセットで覚えたいのですが、なかなか急にできることではありません(笑)。



POINT 6 低く構える利点

僕の中では、低く構えた方が厚みの照準が合わせやすいと思いますが、これは人によって見え方が違うので、一概には言えません。高く構えた方が入れられる、見やすいという方もいると思います。キューが振りにくい、という方はもう一度POINT4、5の背中と肩の位置に意識してみてください。



ストローク編

右写真はテイクバックからフォロースルーまで、一連のストロークを撮ったもの。ヘッドアップや身体の動きがなく、技術が凝縮されているのがわかる。一朝一夕で身に付くものではないが、まずは一度試していただきたい。

POINT 1

ブレないフォームでストロークを生む

ストロークはフォーム編で解説したあらゆるポイントが生むものなので、すぐに真っ直ぐなストロークを身に付けるのは難しいと思います。

準備ストローク段階で意識することは、グリップを動かさないことです。真っ直ぐなら真っ直ぐ、内巻きなら内巻きと、一度構えた方向からズレないように意識しましょう。

僕の場合、グリップを内巻きにしてしまうクセや、緊迫した試合などでヘッドアップしてしまったりすることがあり、気付いた時に修正するようにしています。このように「自分の型」をしっかり持って、それが崩れないようにするのが重要なポイントです。

POINT 2

テイクバック時もアゴ、胸に付ける

フォーム編で解説したアゴ、胸にキューを付けるのは、テイクバック、フォロースルーの時も付け続けたままです。海外では、アゴが滑りやすいようにヒゲを伸ばしている選手もいます(笑)。

以前レッスンで「引き球ができない」という方がいて、「じゃあアゴと胸にキューを付けてみたらどうですか?」と言ったら引けるようになった方がいました。ブリッジとグリップ以外にキューに触れる箇所を増やしたことで、コジったり撞点が上がるのを防いだからです。グリップ、胸、アゴ、ブリッジと4箇所でもキューを支えていたら、ある程度キューを真っ直ぐ振る保証にはなります。

POINT 3

撞いた直後のヘッドアップには注意

ヘッドアップを直す方法も、アゴを付ける意識が有効です。ヘッドアップ以外に「撞く時に身体を動かさないように意識してるの?」と聞かれることがありますが、身体に関しては動かないよう意識することはありません(笑)。土台になるフォームを確立することが大事ですね。

ここまで僕のフォーム、ストロークについて解説させていただきましたがいかがだったでしょうか?

僕がこれまで海外で経験してきたことは山ほどあるので、そういったことをこれから伝えていけたらと思っています。もし興味を持った方がいればぜひ聞きに来てください!

